

令和5年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	小谷村伊折地区の新地域特産物のブランド化推進事業
事業主体 (連絡先)	伊折農業生産組合 電話番号 0261-82-2230 E-mail yukiwarisou.iori@gmail.com 担当藤原
事業区分	(6)イ農業の振興と農山村づくり (1) 地域協働の推進に関する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	904,830 円 (うち支援金: 722,000 円)

事業内容

- R5年度はハーブを加工品にするための栽培管理や、乾燥に重点を置く。
- R4年度試作したブレンドティーに加え、豆茶やハーブスパイスの試作加工を行う。
- ハーブを体験にも活用する為、子供と作るアウトドアレシピを開発する。
- R5年度はハーブを使ったWSを4回開催し今後の体験メニューに繋げる。

<規模>9a

<方法等>

少人数でも持続可能な栽培管理方法を工夫し、加工や体験にも力を入れる。



【WSの様子】

【目標・ねらい】

- ① 高齢化・過疎化に対応した持続可能な農産物栽培方法の構築
- ② アフターコロナに向けての体験メニューの増加
- ③ 親子で出来るWSづくりを通し多世代への繋がり拡大

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ① 今まで取り組んできた菌ちゃん農法の栽培によりR3年度から比べ、人件費35%削減。加工する為のハーブの乾燥に時間を充てる事ができた。
- ② 旅行者増加の中、WSメニューを行うことによりR5年度のWS参加者は、大人100名子供50名。前年度の3倍増。近隣店舗でもWSや加工品試験販売を行なった。
- ③ 小谷村内外で活躍している女性達とWSを行うことで様々なアイデアや地域の繋がりを拓ける事ができた。田植え体験や、ゆきわりキャベツの収穫体験への参加に繋がった。

※自己評価 【 A 】

【理由】
R5年度、6種類のハーブティーと2種類のハーブスパイスを作ることができた。WSを通しハーブを身近に感じてもらう活動ができ、地産地消の推進に繋がった。引き続きこれからもこの取り組みを続けていきたい。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

R3、R4とハーブの栽培や加工に取り組んできた。活動の中で家族連れの方などにも持続可能な農業や里山の暮らしにも関心を持っていただいた。農業体験メニューのバリエーションを増やし、子供達など若い世代にも里山の暮らしや農産物を身近に感じてもらえる様な取り組みを続けていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた
「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある